

(別紙 6)

北海道における認定鳥獣捕獲等事業者等の育成に係る評価報告

1 認定鳥獣捕獲等事業者等の現状や課題等

道内の認定鳥獣捕獲等事業者は、令和 6 年度末現在 29 団体で、これらは将来的に鳥獣生息状況調査や計画策定、モニタリング及び評価等、地域の鳥獣管理の担い手となることが期待されており、指定管理鳥獣捕獲等事業の適正かつ効率的な実施に当たり、「計画的で安全な捕獲」、「法令の遵守」及び「契約に基づく業務遂行」など認定鳥獣捕獲等事業者として必要とされる資質について、一層の向上を図る必要がある。

2 1 の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

実施時期	令和 7 年 3 月
場所	札幌市内
目的	本道の認定鳥獣捕獲等事業者について、地域の鳥獣管理の担い手となるよう、指定管理鳥獣捕獲等事業に係る関係法令や制度、本道の鳥獣生息状況及び捕獲事業における安全管理等の知識習得と理解向上を図ることを目的とする
対象者・講師 (人数も記載)	○対象者 (1) 認定鳥獣捕獲等事業者の事業管理責任者 (2) 鳥獣保護管理法施行規則に基づく鳥獣捕獲等事業者が捕獲従事者等に対して行う研修の講師となることが想定される者 ○受講者：認定鳥獣捕獲等事業者 11 社 15 名 ○講師：北海道環境生活部野生動物対策課 職員 3 名
内容	狩猟事故防止、特定ライフル所持許可手続き、エゾシカの生息状況、指定管理鳥獣捕獲等事業概要 等
方法	対面式による講義
評価方法	①受講事業者割合 R6:38%[11/29]、R5:58%[15/26]、R4:56%[15/27] ②受講者数 R6:15 名、R5:20 名、R4:27 名
事業費	会場借上費 7,060 円
備考	

注 1：項目に沿って、実施した研修会等の具体的内容を記入すること。なお、「目的」には育成したい人材像も記入し、「評価方法」には目的や育成したい人材像に対する事業内容の適切性の検証方法や事業効果の測定方法等を記入すること。

注 2：事業終了後の評価結果では、各項目について、実施した結果を記入すること。

3 2 の取組に対する評価と今後の課題等（事業終了後の評価結果時のみ記入）

法令に基づく具体的な手続き等の知識や狩猟期間中の主な事故違反の概要、最新のエゾシカの生息状況、道の指定管理鳥獣捕獲等事業等の実施状況や具体的な取組事例等について説明し、認定鳥獣捕獲等事業者の資質向上に役立ったと考えられる。

注：1 の課題及び 2 の各記載内容等も踏まえ、取組が適切に実施されたか、目的に対して効果があったか等の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった取組の改善点や今後の認定事業者の育成の課題等についても記入すること。

4 その他

--

注：特記すべき事項があれば記入すること。